

町並み保存地区周辺地区 景観舗装整備方針について

整備方針検討資料

目次

- 1. 前回景観審議会の振り返り p.01
- 2. 景観舗装整備方針の検討 p.02
- 3. 現在の舗装整備状況 p.03
- 4. 景観舗装の工法比較 p.05
- 5. 舗装配置計画（案） p.06
- 6. 整備イメージ比較 p.09
- 7. 伝統的建造物群保存地区保存審議会 p.11
- 8. 住民説明会 p.12
- 9. 今後のスケジュール p.14

令和7年度 竹原市景観審議会

日時：令和8年3月18日（水）10：00～

場所：竹原市役所1階 第4会議室

出席者：以下のとおり

今川 朱美	委員	梅谷 承孝	委員
升谷 昌則	委員	今本 新	委員
檜谷本 浩二	委員	山村 道雄	委員
荒川 幸子	委員	宮崎 信之	委員



審議会実施状況



報告：竹原市の景観に関する取組状況について

議題：町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について

主な意見：

- レンガ舗装については耐久性は十分にあり、受注生産で材料や強度は共通の車道用の規格を採用すれば対応できるため、地元企業に相談してみることに。
⇒ 耐久性や経済性等を再検討し、レンガ舗装を採用しました。
- 舗装の区分けが分かりにくいため、景観舗装の整備について、統一感やルールを明確化すること。
⇒ 景観舗装整備の統一感やルールを明確化しました。
- 細い路地に関しては車両通行がないため、自然色アスファルトでも良いのではないかと併せてルール決めの中で再検討してもらいたい。
⇒ 再検討した結果、統一感やメンテナンスの観点から、自然色アスファルトは採用していません。

◇上位計画や利用状況、街路の整備状況などを踏まえ、現状と課題を整理し、景観舗装の整備方針を検討しました。

現状の整理

町並み 保存地区	上位計画等による位置付け ● 現在の“竹原らしさ”を継承し、生活と伝統が融合した歴史的景観の維持・向上を目指します。（景観計画） ● 住民が誇る「街歩き観光地」まちあるきを楽しめる、満足度の高い観光地をめざす。（観光振興計画）	街路状況	現在の舗装の整備状況 ● H2.3に調査報告された整備計画に基づいて、御影石と黒レンガを組み合わせた舗装が施されている。 ● 一部区間においてコンクリート舗装やアスファルト舗装がある。
	法規制等 ● 建築物や工作物、屋外広告物等の形態や色彩に関する規制基準が定められている。（竹原市景観条例）		舗装の劣化・破損状況 ● 御影石や黒レンガの亀裂、ひび割れ、ぐらつきや破損がみられる。さらに、ぐらつきにより車両通行時に音が発生する。 ● 埋設物の補修工事に伴う舗装復旧にアスファルトが使用されているため、景観性や統一感が損なわれており、路面の凹凸の原因になっている。 ● 雨天時に御影石や黒レンガ舗装が滑りやすくなる。
	市民意見 ● 良好な景観を形成する上で重点的に取り組む地区・地域として「たけはら町並み保存地区周辺」が上位にあり、市民意見としてお気に入りの景観や未来の子供たちに残したい景観に挙げられている。		「たけはら町並み保存地区」のクチコミ写真投稿数 ● Googleマップのクチコミでは、「本町通り」の投稿写真が最も多く、次に「神明掛町通り」の写真も多数見受けられる。
	町並み保存地区の利用状況 ● 年間を通して市内外から多くの観光客が訪れており、重要な観光資源となっている。 ● 「たけはら町並み雛めぐり」「たけはら竹祭り」、「たけはら憧憬の路」など、歴史的な町並みを利用したイベントが実施されている。	SNS分析	
		関連事業	舗装整備にかかる関連事業 ● 令和7度～9年度にかけて、下水道工事・水道工事を予定している。 ● 下水道・水道工事の掘削に伴う舗装復旧は、アスファルト舗装での仮復旧までとしており、本復旧は令和9年度の実施を予定している。

課題の抽出

周辺景観との調和 ● 市民が残したいと思う現存する歴史的な町並み（御影石と黒レンガによる景観）の継承 ● 景観舗装部における工事補修跡の修復等による歴史的な町並みとの調和 ● 観光客利用やSNS投稿などを踏まえ、整備の優先度を考慮	劣化・破損等の修復 ● 石畳舗装やレンガ舗装の亀裂、ひび割れ、変形や破損箇所の修復 ● 再整備にかかる初期費用だけでなく長期的な修繕方法・費用を考慮	関連事業との連携・配慮 ● 下水道工事・水道工事の工事範囲や施工方法、工事スケジュール等との整合 ● 沿道住民の生活やイベント開催時期に配慮した施工方法・工事スケジュールの検討
--	---	---

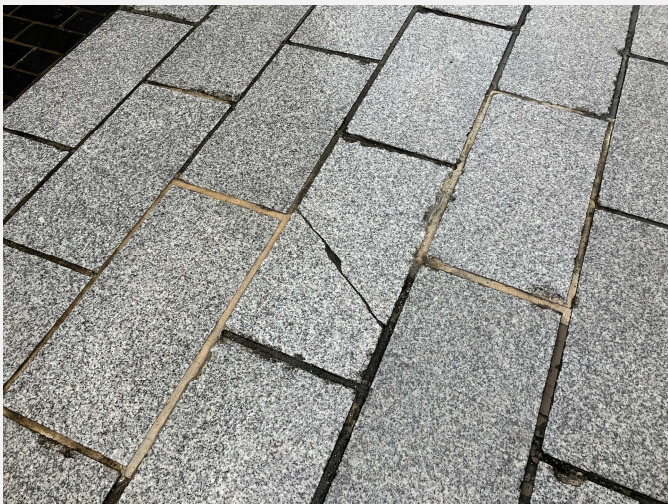
景観舗装整備の方針

方針①	歴史ある町並みと調和した街路の整備を目指し、 <u>現在の竹原らしい景観を継承する。</u> また、関連事業による舗装工事を契機として、現在の <u>歴史的な建物の立地状況や、住民・観光客等の利用状況を踏まえ、必要に応じて景観舗装（水路を含む）の考え方を見直す。</u>
方針②	劣化・破損箇所にあたり、住民の生活や観光客の利用に配慮した <u>耐久性・安全性等を考慮するとともに、舗装の再整備・維持修繕に係るコストの縮減を図る。</u>
方針③	関連事業を考慮しつつ、 <u>舗装の改修が必要な範囲を検討するとともに、施工方法・工事スケジュールは、沿道住民の生活やイベント開催時期に配慮する。</u>

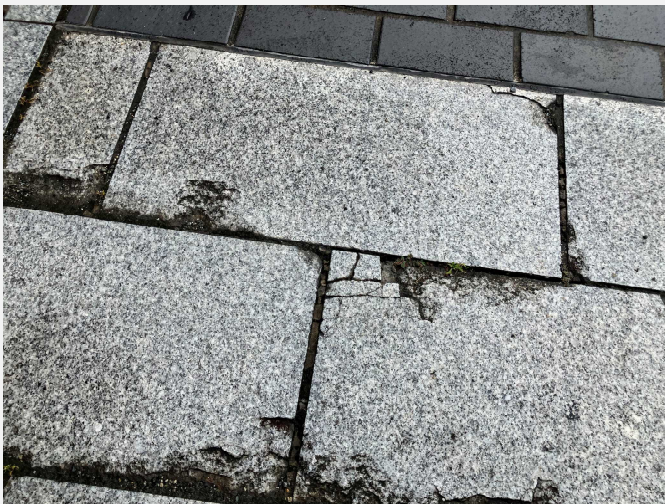
◇現状の御影石および黒レンガの主な劣化および破損状況は以下のとおりです。

御影石

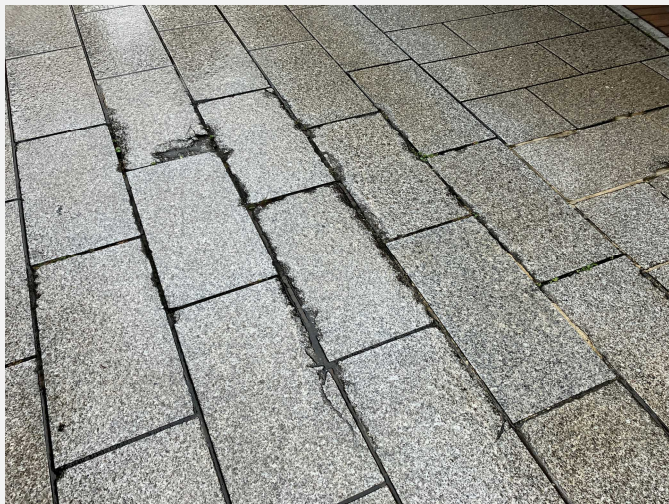
ひび割れ



ひび割れ・欠け



摩耗・剥離



黒レンガ

ひび割れ・摩耗



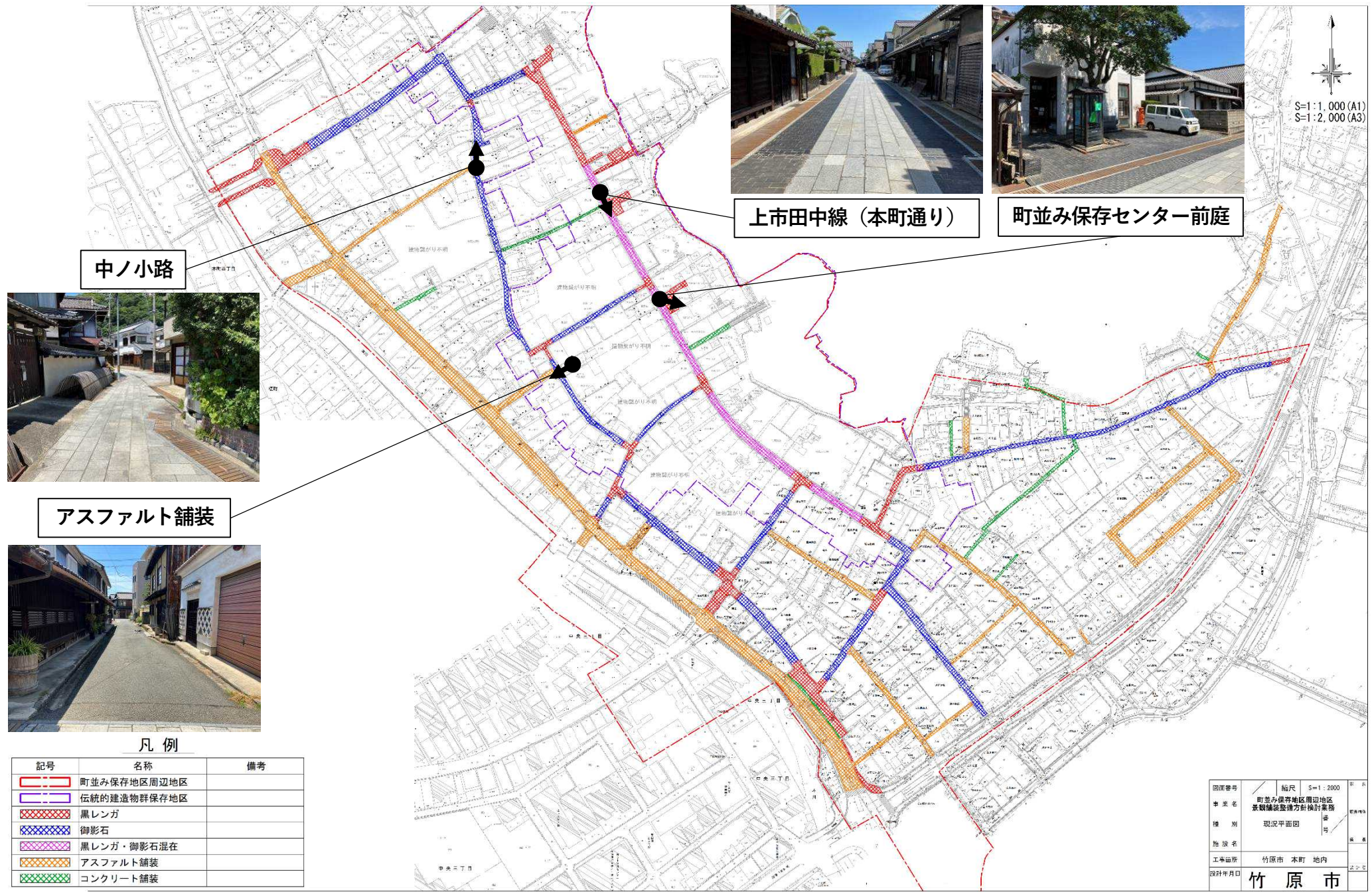
ひび割れ・摩耗



ぐらつき



- ◇対象範囲及び現況の舗装種別を示します。
- ◇主要な観光ルートである本町通りや中ノ小路、町並み保存センター前庭等は御影石や黒レンガによる美装化が施されています。一方、主要な観光ルートではない路地等は、アスファルト舗装やコンクリート舗装が用いられています。



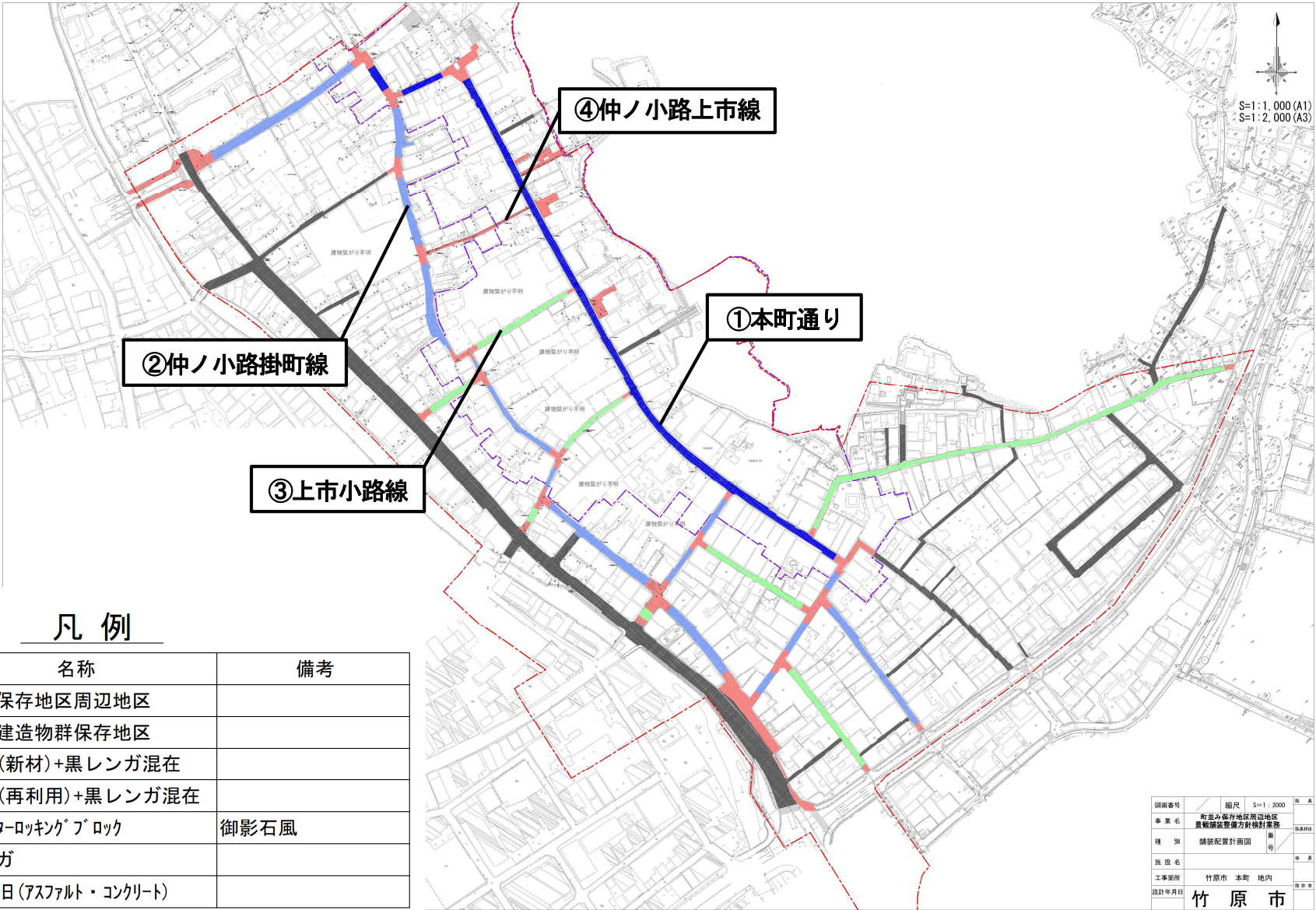
- ◇現在の町並み保存地区はH2.3に調査された街路事業調査報告書に従い、御影石舗装や黒レンガ舗装を使用した景観が形成されています。
- ◇一方で、町並みが形成された江戸時代は現在のような舗装ではなく、土系による街路によって町並みが形成されていたことが想定され、当時の雰囲気再現することが望ましいとの住民要望も寄せられています。
- ◇このため、現在の御影石舗装や黒レンガ舗装による景観イメージと、江戸時代の雰囲気を復元するための真砂土系舗装による景観イメージの各イメージに沿った工法比較を行いました。

	＜御影石舗装や黒レンガ舗装による景観イメージ＞				＜真砂土系舗装による景観イメージ＞	
特徴	✓ 御影石と黒レンガの対比が特徴的で、竹原らしい景観をとなっている。 ✓ 御影石やレンガを模した舗装として、インターロッキングブロックのほか、アスファルト系舗装に目地切りや型押しを施す工法がある。				✓ 町並みが形成された江戸時代の雰囲気を復元できるが、現在の竹原らしい景観が失われる。 ✓ 真砂土を模した舗装として、天然の砂利等を用いた自然色アスファルト舗装工法がある。	
工法(例)	御影石・黒レンガ舗装 (現況復旧)	インターロッキング ブロック舗装	石畳風半たわみ舗装 (目地切り)	型押しアスファルト 舗装(カラー材塗布)	真砂土舗装	自然色アスファルト 舗装
整備イメージ						
経済性	▲ 他の景観舗装と比較して最も高価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価
備考	✓ 御影石は再利用可能 ✓ 黒レンガは損傷が大きいため新材	✓ 大型車両通行不可			✓ 車両通行不可	
総評	● 御影石や黒レンガ舗装により、現在の竹原らしい景観を継承することができる。 ● 御影石や黒レンガが持つ落ち着いた色調と重厚感を活かすことができる。 ▲ 現況の御影石・黒レンガ舗装は雨天時に滑りやすく、経年劣化により路面のぐらつきが発生する場合がある。 ● 御影石や黒レンガを模したインターロッキングブロックや石畳風半たわみ舗装、型押しアスファルト舗装は、カラーや形、大きさなどを選択でき、現在の景観に似た雰囲気を保つことができる。 ● 御影石や黒レンガを模したインターロッキングブロックや石畳風半たわみ舗装、型押しアスファルト舗装は、路面のぐらつきや雨天時の滑りの対策が可能。				▲ 町並みが形成された江戸時代の雰囲気を復元できるが、現在の竹原らしい景観とは大きく異なる。 ▲ 真砂土舗装は車両通行不可。 ▲ 真砂土舗装は直射日光や雨風の影響で劣化しやすく、ほこりが立ちやすい。 ● 自然色アスファルト舗装は通常のアスファルトと同様に、雨天時に滑りにくい。	

◇前ページの工法比較を基に、以下の4案の整備パターンを比較しました。

	案1	案2	案3	案4
特徴	既存の御影石・黒レンガを新材で復旧した案	御影石・黒レンガに見た目が近いインターロッキングブロックを用いた案	可能な範囲で御影石を再利用しつつ、新材の御影石・インターロッキングブロック・黒レンガ等を用いた案	真砂土を模した自然色アスファルトを用いた案
景観	●落ち着いた色味や重厚感を活かし現在の竹原らしい景観を継承することができる	▲現況に近い景観を演出できるが、工業製品になるため、路線が単調になる	●現況のまま、もしくは現況に近い景観を演出できる	▲江戸時代当時の雰囲気をも復元できるが、現在の竹原らしい景観と大きく雰囲気が異なる ▲経年劣化が激しい
概算事業費	約6.38億円	約3.65億円	約4.01億円	約2.43億円
LCC	約10.16億円／30年	約6.57億円／30年	約6.93億円／30年	約5.35億円／30年
性能 (安全性)	▲雨天時の御影石は滑りやすい (新材のレンガは滑りにくい)	●既存レンガと比較して雨天時に滑りにくい	●雨天時に御影石は滑りやすいが、インターロッキングブロック・新材レンガは滑りにくい	●滑りやすさ、耐久性は通常のアスファルトと同等
総評	御影石・黒レンガで重厚感は保たれるが、雨天時の安全性やコスト面に課題が残る	安全性、コスト面で優れているが、路線が単調になり、御影石・黒レンガの重厚感は失われる	主要路線に御影石・黒レンガを採用することで、重厚感を保ちつつ、その他の路線にはインターロッキングブロックを採用することで、安全性を確保できる	コスト面では最も優れているが、現在の景観から大きく雰囲気が異なる 現在の技術では、経年劣化が激しく、将来的な維持管理の面でも課題が残る

- ◇現時点の舗装配置計画図（案3を採用した場合）を以下に示します。
- 可能な範囲で既存の御影石を再利用しつつ、新材の御影石・インターロッキングブロック・黒レンガ等を用いることで、現在に近い景観を演出できます。
 - 御影石を使用する路線には、現在の本町通りのデザインを踏襲し、道路中央部に御影石、その両側に新材の黒レンガを用います。新材のレンガを用いることで、既存のレンガより滑りにくなります。（試験施工済み）
 - 主要な路線に新材・再用品の御影石を用いつつ、他の路線には新材の黒レンガやインターロッキングブロックを用いることでコストを抑えることができ、雨天時に滑りにくなります。

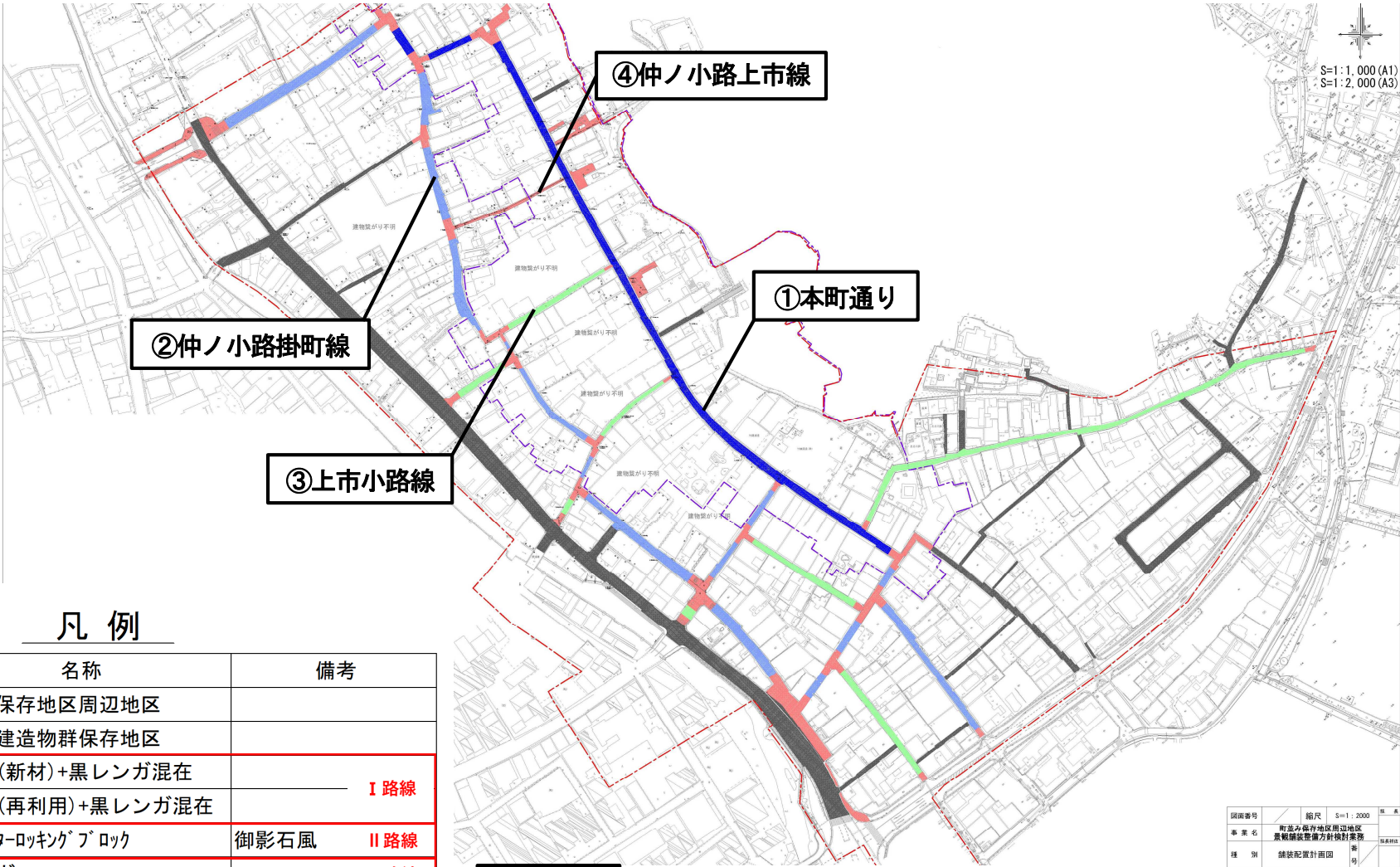


◆路線パターンの考え方について

- I. 主要な観光ルートに位置づけられている路線
- II. 主要な観光ルート以外の町並み保存地区周辺地区の路線
- III. 主要な観光ルート以外の町並み保存地区周辺地区の路線（狭路）
- IV. その他の路線

- ⇒ 御影石（新材・再利用）＋黒レンガ
- ⇒ 大判インターロッキングブロック ※御影石風
- ⇒ 黒レンガ
- ⇒ 現況復旧（アスファルト・コンクリート）

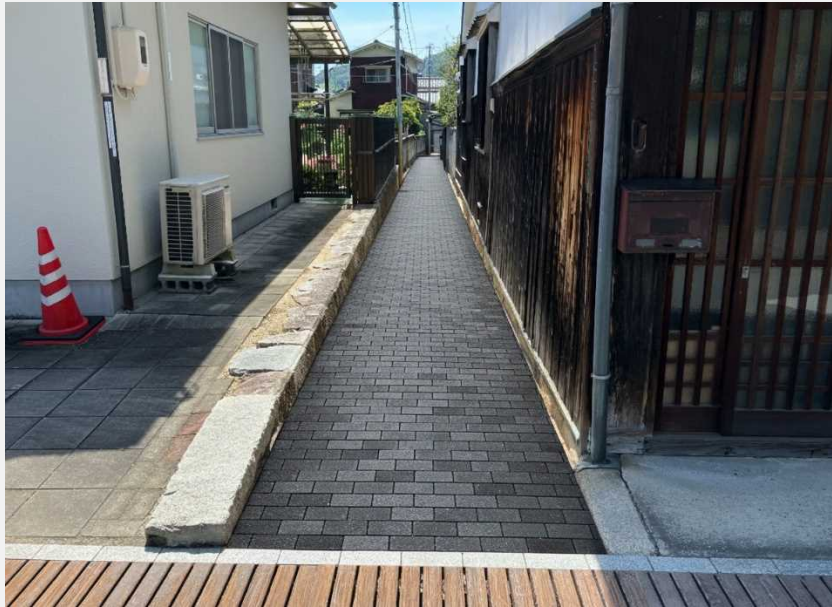
交差点部（延長5m ※道路交通法第四十四条二より）は、路線の節目、連続する町並み景観が変化するポイントとして、黒レンガ舗装とする。ただし、本町通りは町並み保存地区の主要路線であることから、交差点部についても御影石を繋げることにする。



① ～～線 ： 次ページで整備後イメージ比較

図面番号	縮尺	S=1:2000	図 説
事業名	町並み保存地区周辺地区 景観環境整備方針検討業務		
種 別	舗装配置計画図		
施設名	竹原市 本町 地内	図 号	
工事箇所	竹原市 本町 地内	設計年月日	

	現況	整備後イメージ
① 本町通り 【I 路線】 御影石 (新材) 黒レンガ		
② 仲ノ小路掛町線(中ノ小路) 【I 路線】 御影石 (再利用) 黒レンガ		
備考	画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。	

	現況	整備後イメージ
③ 上市小路線 (大小路) 【II 路線】 御影石風 I L B 黒レンガ		
④ 仲ノ小路 上市線 【III 路線】 黒レンガ		
備考	画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。	

令和8年度第1回竹原市伝統的建造物群保存地区保存審議会

日時：令和8年4月24日（金）14：00～16：00

場所：竹原市町並み保存センター 2階会議室

委員出席者：5名

議事：町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について

主な意見：

- 住民説明会における多様な意見に対して、丁寧な説明をお願いしたい。
⇒住民説明会で丁寧な説明を実施しました。
- 今回の景観舗装は、現在の竹原の町並みを「竹原らしい景観」とし継承していく方針とすべきである。
⇒現在の竹原の町並みを「竹原らしい景観」として継承していく方針としました。
- 元々の土に近い茶色の景観舗装が、当時の竹原の景観を継承するうえでは最適と考えられるが、現在の技術での適応は困難である。将来的課題であることを住民にも説明し、理解が得られるようにすべきである。
⇒将来的課題であることの理解が得られるように、今後も説明していきます。
- 御影石・黒レンガ・インターロッキングブロックにはそれぞれ特徴がある。自然素材を多く使用することが望ましいが、適材適所にそれぞれ配置すること。
⇒景観舗装の配置計画を適材適所に配置しました。



実施概要

第 1 回

令和 8 年 5 月 2 7 日（水）
1 8 : 0 0 ～ 1 9 : 3 0
@道の駅たけはら
2 階地域交流スペース
出席者 7 名

第 2 回

令和 8 年 5 月 3 1 日（日）
1 0 : 0 0 ～ 1 1 : 3 0
@道の駅たけはら
2 階地域交流スペース
出席者 1 7 名

周知方法

・ 竹原市内全域へ回覧

説明会状況写真



【第 1 回】



【第 2 回】

町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針
説明会のお知らせ

地域の皆様へ

平素から、市行政に御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
本市では、町並み保存地区や周辺地区で下水道事業・水道事業等の工事を進めており、景観の観点と今後の整備や維持に係る費用の縮減を考慮した舗装の復旧を検討しています。
つきましては、次のとおり説明会を開催いたしますので、御多用とは思いますが、御参加くださいますようお願い申し上げます。

1 日 時

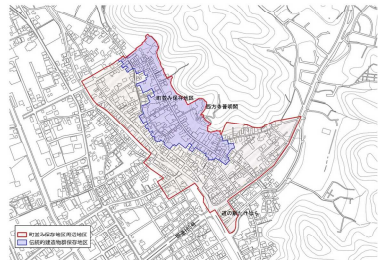
第 1 回：令和 8 年 5 月 27 日（水） 18:00～
第 2 回：令和 8 年 5 月 31 日（日） 10:00～

2 場 所

道の駅 2階 地域交流スペース（竹原市本町一丁目 1-1）

3 内 容

町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針について



【問い合わせ先】
竹原市 建設部 都市整備課
電話：0846-22-7749
担当：北原・小林

【説明会のお知らせ】

主な意見と対応

No	意 見	回答内容
1	【下水道事業関連】 下水道工事に伴う仮設舗装の凹凸が激しく、日々の生活に支障をきたしている。 道路を整備した後に、宅内への接続工事で再度道路を掘り返すようなことがないか心配である。	仮設舗装の凹凸が激しい箇所については、下水道担当課で検討を行っているが、再度状況を伝える。 宅内への接続に関しては、道路側の工事においては、再度宅内向けに掘り返すことがないよう、復旧を進める方針である。
2	【側溝関連】 年1回行われる側溝の清掃作業時に、現在の側溝蓋は隙間がなく、非常に重いため持ち上げるのが困難である。 作業を行う住民の高齢化が進んでおり、大きな負担となっているため、軽量化や隙間を設けるなど取り外しやすい構造への改善を要望する。	蓋の取り外しに関する負担については認識している。今回の景観舗装整備に合わせて側溝の縁石をアンカー等でしっかりと固定し、現在よりも清掃時に取り外しやすい構造への改善を検討している。
3	【工事関連】 工事の計画期間や工事の進め方について、住民への十分な説明と理解を得てから開始してほしい。事前の具体的な工事日のお知らせがなく、特に飲食店や駐車場利用者と困っている。前日には周知してほしい。	現在、計画的に工事を進めており、説明会やSNSで情報発信している。今後は、完了報告を含め、より十分な情報共有に努める。 住民が工事日になって初めて着工を知ることがないように、十分周知する。
4	【交通規制関連】 大型車への課税や規制を検討し、舗装の損傷軽減を図ってほしい。	全車両の規制はできない。今回の整備では耐久性や滑りにくさなど安全性に配慮した舗装を導入し、現状より改善されと考えている。

